

- 祝 卒業！！
- 学年末考査 終了
- 合格速報会

今年度末は来年度はじめ

進路指導部

前号の「新宿通信」において、「〈0学期〉です！」と題して年度末の大切さについて述べました。今年度の修了式を迎えるにあたり、進路指導部から改めてこの時期の重要性について触れておきたいと思います。

明日3月25日から4月5日まで、12日間の休業期間が待っています。当然のことですが、授業期間とは異なる時間の使い方がそこにはあります。部活動や委員会活動、自分の趣味に使ったり家族と共に過ごす時間。限られた期間ではありますが、有意義な過ごし方を工夫してください。

学習面においては、各教科から出される課題に早めに取り組むことは当然として、それ以外にこの時期をどう過ごすか、ぜひ考えてみてください。

授業も考査も終わった年度末、1・2年生はほっと一息つきたいところでしょうが、それと同時に、3年生の受験結果を見て、合格速報会で3年生の話を直接聞いて、身の引き締まる思いもしていることでしょう。そんな気持ちになったときこそが飛躍のチャンスです。今年度1年間の学習の中で取りこぼしている部分、未消化の部分は、そのまま放置していると日々新たな借金を生む元となってしまいます。必ずこの春休みの間に補って、取り返しておきましょう。〈今年度末は来年度はじめ〉であることを忘れることなく、充実した春休みを作っていきましょう。

4月には1・2年生の皆さんはそれぞれひとつ進級して、さらに新入生が新たな新宿生として入学してきます。来年度は学校の中心学年、もしくは最上級学年として、今年度以上に大切な1年です。未来の自分を助けるのか、苦しめてしまうのかは自分次第です！来年度も悔いのない高校生活を送れるよう、普段から心がけてください。

○祝 卒業！！

1月中旬の大学入学共通テストから本格的に始まった今年度の大学入試も、終わりが見えてきました。現役生の3月17日現在の合格状況は表にまとめたとおりです。なお、このほか、表には入っていませんが、浪人生も健闘しています。東京工業大学、国公立大学医学部医学科（2名）、などの国公立大学、早稲田大、慶応大などの私立大学合格の知らせが、続々と届いています。新型コロナウイルス感染症の影響があり、今年度もオープンキャンパスなどの進路活動に支障はありましたが、それにも負けずに入試に臨んだ新宿生の1

年間の頑張りが実を結んでいます。

私大はここ数年、各大学で合格者数の絞り込みが行われており、自分の得意とする3教科に絞り込んで挑戦しても、必ずしも結果に結びつくとは限りません。こうした傾向は今後も続くと思われる

卒業おめでとう



す。発表はほぼ終わっていますが、繰り上げ合格等で人数が変わる場合があります。新宿高校としての最終結果報告は、4月に入ってからになります。

大学合格状況（現役75回生） 3/17現在

国公立大学	人数
東京大	1
一橋大	5
東工大	3
京都大	1
国公立医学部医学科	1
上記 国公立難関大学	11
その他 国公立大学	75
国公立大学 現役合格者数 計	86
私立大学	人数
早慶上理 (早稲田・慶應義塾・ 上智・東京理科)	159
GMARCH (学習院・明治・青山学院・ 立教・中央・法政)	403
成蹊・成城・武蔵・明治学院	68
日東駒専 (日本・東洋・駒沢・専修)	108

3年生諸君、そして浪人して頑張った74回生諸君の努力に大きな拍手を送ります。希望した進

路に進む人、まだ最終的な結果が出ていない人、もう一度力をためてチャレンジを決意する人。4月からの進路はさまざまだと思いますが、どれも自分の人生です。自信と誇りをもって、前を向いて進んでください。

75回生の皆さん、ご卒業おめでとうございませす。皆さんの将来に幸多きことを、心からお祈りします。

○学年末考査 終了

3月2日（木）～7日（火）に、今年度最後の考査である、学年末考査が行われました。結果はどうだったでしょうか。満足のいく結果となったのでしょうか。行った準備と出てきた結果との関係は、納得のできるものだったのでしょうか。

学年末考査は、その直前の時期に勉強した内容だけでなく、今年度1年間の学習内容が総合的に出題されているはずですが、この学年末考査の解き直しがとても重要で、次年度に繋がるものとなります。しっかりと解き直し、自分の「分かっていないこと」の発見に利用しましょう。また、今年度の考査を年間を通して振り返ってみると、自分の「ミスの傾向」も分かるはずですが、時間配分、解答のペース、誤字・脱字、設問の読み間違い、勘違いや思い込み…。注意すれば解けた問題を落としていませんか？自分の犯しがちなミスを知り、それを強く意識することではじめてミスを防ぐことができるようになります。

○合格速報会

3月17日（金）に、合格速報会が行われました。1・2年生に向けて、卒業したばかりの3年生から、自身の志望校合格までの道のりを語ってもらいました。先輩の生の声を直接聞くことができる貴重な時間でした。

講演してくれた先輩たちの経験談の中に繰り返し出てきて印象的だったキーワードに、「可視化する」ということがありました。月ごとのやるべきことを書き出して、それを週ごとの、そして日ごとのスケジュールとして見えるように落とし込んでいく。日々の学習の中で何かわからないこと

が出てきた時や、問題演習において間違えてしまったものを「まとめノート」に書き留めておき、後で効率的に見返せるようにしておく。重要事項を自分なりの表現でまとめ直して記してみる。さまざまなことを「可視化する」ことによって、これまでの積み上げと現状、そしてこれから為すべきことが客観的に把握できるようになり、より高い学習効果が期待できます。

もう一つ印象に残ったのが、YouTube の利用です。複数の先輩たちの話の中に、より深くより効率的に学習を進めるために YouTube を活用していたという事例がありました。一方で、スマートフォンを手にして時間を無駄にしまわぬように、タイマー付きのボックスを購入してスマートフォンの自己管理をしたなどの工夫も紹介されました。受験勉強に限らず、また高校生に限らず、日々の生活においてスマートフォンに代表される便利で魅力的な道具とどのように付き合いしていくのかということは、大きな課題です。この合格速報会をきっかけに、各自の道具との付き合い方を見直してみるのも有意義でしょう。道具はあくまでも便利に使うものであって、決して道具に振り回されてしまうことのないよう、肝に銘じておきましょう。

現役で志望校の合格を手にした先輩たちに共通していたのは、ただ漫然と受験生活を送っていた

のではない、ということです。志望校や学習方法、成績結果などに悩み、迷いつつも、自分と向き合い、高い志を持ち続けてそれを力とし、努力と工夫を重ねていたその姿を、ぜひ参考にしてください。来年度、再来年度の合格速報会の講師は、君たち2年生・1年生です！

なお、新年度に配布される「進路のしおり」にも多くの先輩たちの経験談が載る予定です。そちらも楽しみにしててください。

講演者の荒木さん（東京大）、薩谷さん（一橋大）、小林さん（東北大）、浅野さん（早稲田大）、犬塚さん（筑波大・医）、久保野さん（東京医科歯科大）、山沢さん（東京工業大）、高澤さん（千葉大）、進学前の忙しい時期に、ありがとうございました。



【今後の予定】

○始業式・着任式・避難訓練	4/6(木)
○入学式	4/7(金)
○特別考査（新2年）	4/8(土)
○対面式	4/10(月)

先輩からの言葉

「目黒→新宿→札幌→米国→中米→英国→徳之島」←今ココ

伊仙町教育委員会社会教育課

伊仙町誌編纂室長 41回生 松岡 由紀

皆さんは小さい頃から「将来の夢は何ですか？」と聞かれたり、作文を書かされた世代じゃないですか？ 私は常々「どんな人になりたいですか？」或いは「どんな暮らしをしたいですか？」と聞かされたと思っています。職業はさ、人生の、生活の一部であって、生活の糧や生き甲斐に勿論直結はするけど、それだけが人生の幸福度を決めるほど単純じゃないんだよね、これが。

見聞きした人もいると思うけど、ハーバード大学が1938年から約80年間続けてきた史上最長の追跡調査研究によって、「人間を健康で幸福にするのは学歴、職業、年収とは関係なく、良い人間関係に尽きる」という結論が出ています。友人の数は関係なく、心から信頼できる人が一人でもいるかいな

いかが幸福度に寄与するという結論です。スペック、知名度、年収・・・皆さん、これからの人生、有限な時間とエネルギーというリソース、何に割きますか？

かく云う私も新宿高校生時代は悩みまくってました。過去史上最高の入試倍率、浪人確定の成績、将来何をしたいのか、自分は何者なのか、図書館で悶々と本を読み、友達とベントレーで（もうないか）レモンティー飲みながら夜な夜な語った日々を思い出します。ただ振り返って言えることは、自分が何者かを理解できない人は、他者も世界も理解できないし、だからこそ、そのために悩む時間は必要であり、貴重であるということ。俗に言う「自分探しの旅」、私の場合海外にまで答えを求めて30代半ばまで続いたものです。それが今、皆さんにこうやってちょっと偉そげにメッセージを送る身分になるのだから、人生は面白いよ。今悩んでいる人、どんどん悩んでください。ただ真剣になるのは良いけど深刻にはならず。

大体小さい頃に熱中したこととかは自分の核になる何かだと思います。まさに「三つ子の魂百まで」。私は赤ちゃん時代から昆虫が大好きで、飼育員とか獣医とか色々考えたけど、大好きな生物が棲む環境を保全する仕事をしたいと思い、北海道大学農学部、Yale 大学環境スクールで学び、イギリスでは有機農業、地域再生 NGO に勤めて日本に帰ってきました。でもそれはあくまで進路の話で、心の中にいつもあったのは「動植物に囲まれた家で、目の前の畑で出来立てのトマトやトウモロコシを頬ばり、海や川で遊んで雨の日は読書や書き物の生活」を実現するために、常に考えて行動していました。このイメージは小学生時代から一貫して変わらず、人生半世紀を越えた今、ほぼこのイメージを体現できています。

今私が住んでいるのは奄美群島の中央に位置する徳之島の伊仙町です。正真正銘の長寿と子宝（合計特殊出生率 2 期連続日本一の町、今は 2 番）、そして 2021 年 7 月に世界自然遺産に登録された島です。スーツケース一つで移住して今年で 17 年経ちました。無職、未婚、住む家も不確定、しかも妊娠 5 ヶ月で島へ渡ったのが 34 歳、ちょっと普通にはオススメしない状況ではあります。でも 1 年後には町の役場に請われて大きな直売所を立ち上げ、3 年後には無試験で公務員になり、2 人の娘は高校生と小学生になり、島の人たちに囲まれて毎日楽しい時間を過ごしています。2 年前には念願の新居を手掛け、石膏ボード、床板、壁板打ちから外壁、内壁塗装まで、プロの大工さんに混じってセルフビルドの日々でした。目の前の農地には 20 種類の熱帯果樹を植えて、昨年はアボカドとアテモヤの初収穫でした。

この島で公務員として様々な仕事に携わって来たけど、農家さんと研修を行ったり、イベントを企画運営したり、東京では確実に出会うことのない、誰もが知ってる大企業の社長、芸能人、スポーツ選手とかと一緒に仕事したり、海外出張へ行ったり、16 年の公務員人生は楽しい思い出ばかりです。今は「伊仙町誌編纂室長」として 50 年に一度の自治体誌編纂の仕事をしています。頭の中は 30,000 年前の人の暮らしの痕跡とか縄文時代の遺跡、薩摩藩時代の圧政とか投票率 95 % の町長選挙のこととかで一杯です。それらを本に纏めなくてはならないので。

島の人たちは、何かあればすぐ集まり、よく喋ってよく飲み食いして、よく助け合います。私もその輪の中に入れてもらい、子供たちもそんな環境で育ち、本当にこの島に来て良かったと思えます。大人や若いお兄さんお姉さんに囲まれて育った子供たちは、物怖じせずコミュニケーションを図れるし、これからの時代そのスキルは、何よりの強みだろうと子育ての選択には自信を持っています。

みなさん、世界は広いよ。価値観なんて時代と場所が変われば一瞬で変わる。あまり他人が作った物差しで自分の世界や可能性を矮小化せず、自分自身の目で見て体験したものだけを信じるように、その目を養うために必要なスキルを身につけてください。新宿高校の皆さん、南の島から応援しています！

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）